

消防・防災体制の充実について

うるおいの環境都市部会

1 背景

「豊かさの実感、安全、快適、情報文化都市にいま」を将来都市像として、新見市総合振興計画が策定されている。

我々の担当する「うるおいの環境都市部会」は、『消防・防災体制の充実について』を研究テーマとして、安全安心な生活を送るために必要不可欠な、消防防災体制及び関連施設の在り方について検討・協議を重ねてきた。

2 現状

本市の消防・防災体制は、常備消防1本部・1署・4分署、非常備消防団1本部・9分団で組織されており、広大な当地域の消防・防災・救急活動の全般に対応している。

また、新見市防災公園・新見市民運動公園の整備により、災害時に対応できる環境整備が行われ、ハード面の充実が図られている。

安全で安心して暮らせるまちづくりを図るため「防災マップ」「地震防災マップ」を作成し、全戸に配布したことにより、市民の防災に対する意識の高揚に努めている。

3 課題

本市は比較的災害が少ない地域ではあるが、今後、想定外の大災害が発生したときの危機管理体制の更なる充実が望まれる。

救急体制では、重篤な患者については、県南の受入体制や設備が充実している医療機関への搬送を実施しているが、時間短縮を図るためドクターヘリの24時間運行に向けた検討を行う必要がある。

山間部が多く、高齢者人口が増加している本市の現状を踏まえると「自らの地区は自らで守る」ことを目標とした、自主防災組織の育成強化が必要である。

4 提言

市民への配付資料の検証

地域防災計画・防災マップ・地震防災マップの見直しを定期的を実施し、実状に適合した内容へと再検証を図る。

市民の防災意識の高揚

各地区において消火栓等の防災施設の周知を図り、防災マップ等を活用した広報や訓練等を、平常時から繰り返し実施する。

防災体制の整備強化

想定外の大災害発生時でも即応できる防災体制の強化を図り、同時に地域においても災害に対応できるようなサポート体制を構築する。

災害発生時の対応

各種団体（特に建設業協会）等との連携強化に努め、災害発生時の対応を迅速に進める。

救急体制の強化

市内病院の一次・二次救急医療体制の充実を図り、三次救急への有効な対応策としてドクターヘリの24時間運行の早期実現について検討し、関係機関への働きかけを積極的に実施する。

消火栓の管理の徹底

各地域に設置されている消火栓については、管理主体への点検及び確認の徹底が必要である。又備品（ホース等）の調査を実施するとともに、経年劣化で使用不能なものが多数あると思われるので早急な対応が必要である。

防火水槽、消火栓の設置

消防水利の不足している地域の解消を図るとともに、積雪地域の消火栓は地上式を検討してもらいたい。

5 まとめ

国内に目を向ければ東日本大震災の発生により、防災に対する意識は高まりを見せており、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進する重要性が増している。

今回、消防・防災体制の充実について考察したことで、地域・関係機関・行政等と連携した有効な施策を検討する必要があると実感した。

この提言が、少しでも施策に反映され、実現に向けて取り組まれることを期待する。